

宮城県畜産試験場の沿革

- 大正 10 年 8 月 刈田郡白石町大字郡山（現白石市）に創設。種牛（ホルスタイン種・改良和種）に関する業務のみ施行。
- 昭和 3 年 4 月 緬羊，山羊，豚，鶏および兎に関する業務を追加施行。
- 昭和 19 年 4 月 有畜農業指導員養成施設を併置。
- 昭和 22 年 4 月 上記養成施設が畜産技術員養成施設と改められる。
- 昭和 24 年 5 月 玉造郡西大崎村（現岩出山町）所在の農林省宮城種畜牧場の廃場に併いその施設と家畜を譲受。
- 昭和 24 年 6 月 白石町より西大崎村に移転更に加美種畜場を閉鎖，その家畜を当場に移し新たに馬に関する業務を加えて総合種畜場として発足。
- 昭和 29 年 10 月 家畜人工授精（牛）メインセンターを併設県内北部（5 家畜保健所管内）に精液配布業務を開始。
- 昭和 32 年 4 月 鶏の抜取見本産卵能力検定（R S T）実施。
- 昭和 33 年 4 月 種雄牛を集中管理。人工授精精液を県内一円配布。
- 昭和 35 年 11 月 組織改正により，家畜，家きん，飼料作物に関する試験研究業務を追加。
- 昭和 36 年 10 月 畜産技術員養成施設が畜産技術講習施設に改正。
- 昭和 40 年 4 月 豚の産肉能力検定事業を開始。
- 昭和 43 年 4 月 液体窒素による牛凍結精液を県内一円に配布開始。
- 昭和 43 年 10 月 玉造郡鳴子分場（旧開拓営農普及農場）併置（昭和 46 年 3 月に閉鎖）。
- 昭和 45 年 4 月 庶務，種畜，草地飼料の 3 課制となる。
- 昭和 48 年 4 月 宮城県畜産試験場に改め，総務課，家畜第一部（乳牛科，肉牛科，畜産化学科），家畜第二部（養豚科，養鶏科，畜産公害科）及び草地飼料部（草地科，飼料科）の 1 課 3 部制となる。
- 昭和 49 年 6 月 種雄牛「茂重波」を兵庫県より購入，同年精液配布（昭和 63 年 1 月廃用）。
- 昭和 52 年 4 月 現在の本館を建設。宮城県農業実践大学校（現宮城県農業大学校）が併設される。
- 昭和 53 年 4 月 総務課，研究第一部（経営研究科，乳牛科，肉牛科），研究第二部（養豚科，養鶏科，畜産化学科），研究第三部（草地飼料科，畜産公害科）となる。
- 昭和 58 年 4 月 研究第二部に原種豚造成科を新設し，種豚舎と検定豚舎完成。同時に畜産化学科を研究第三部に編入。
- 昭和 59 年 6 月 前年受精卵移植技術に着手し，本県最初の受精卵移植による子牛が誕生。
- 昭和 61 年 4 月 場内組織を総務課，酪農肉牛部，種豚家きん部，草地飼料部に改称し，酪農肉牛部に受精卵研究科を新設。

- 平成 2 年 3 月 前年ランドレース種系統造成完了, 「ミヤギノ」の系統認定を受ける。
- 平成 2 年 4 月 原種豚造成科を原種豚科に改称。
- 平成 4 年 6 月 高泌乳牛の飼養管理を目的とした乳牛舎完成。
- 平成 5 年 4 月 「茂勝」を基幹種雄牛に選定し, 同年精液を配布。(平成 16 年 12 月
廃用)
- 平成 9 年 4 月 受精卵研究科をバイオテクノロジー研究科に改称。翌年 1 月バイオテク
棟完成。
- 平成 11 年 4 月 組織改正により, 総務班, 酪農肉牛部(乳牛チーム, 肉牛チーム, バ
イオテクノロジー研究チーム), 種豚家きん部(原種豚チーム, 養豚
家きんチーム), 草地飼料部(草地飼料チーム, 環境資源チーム)と
なる。
- 平成 14 年 3 月 前年デュロック種系統造成完了, 「しもふりレッド」の系統認定を受け
る。
翌年 2 月原種豚舎完成。
- 平成 14 年 8 月 家畜排せつ物法に対応した, たい肥化棟(強制発酵処理施設)を建設。
- 平成 19 年 3 月 「茂洋」を基幹種雄牛に選定し, 同年精液を配布。(令和元年 9 月廃
用)
- 平成 21 年 3 月 前年ランドレース種系統造成完了, 「ミヤギノ L 2」の系統認定を受け
る。
- 平成 30 年 11 月 新しい種雄牛舎と精液採取棟完成。